イルミネーション・デート

ゴンギツネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
イルミネーション・デート

【Ｎコード】
Ｎ６１３９Ｚ

【作者名】
ゴンギツネ

【あらすじ】
作者初めての恋愛小説です。
ちなみに、今回はＢＡＤ　ＥＮＤではありません。

ネオン灯が、きらびやかに光る。
自然の光とは一味違う科学の色。

「きれいねえ」
彼女――美紀が言う。
「うん。そうだね」
「ちょっとは、『君のほうがきれいだよ』や、『君が居ると、色あせて見えるよ』とか気のきいた言葉を言わないの？」
僕は、苦笑しながら、「君のほうがきれいだよ」と言う。
「ありがとー。でも、捻りがなさすぎじゃない？」
その「ありがとー」は、棒読みだ。
「お前が言ったんだろ？」
「そこは、空気を読んで……みたいな？」
「空気は読めない」
「屁理屈を言わないの」
「俺は――いや、反論が見つからない」
そこで話題が途切れる。
二人で顔を見合わせて、一緒に笑った。
そっと、箱を彼女のジャケットに入れる。その箱には、指輪が入っていて、寝ている間に測った彼女の指のサイズに合わせてある。
彼女は、気が付かないままだ。……もしかしたら、あえて気が付かないふりをしているのかもしれない。でも、それならば彼女の考えがあるのだろう。今のデートを楽しまなくっちゃ。
「次、どこ行く？」
「水族館……でいい？」
「うん。早くいこ！」
その言葉には、純粋な喜びがあった。

水族館にきたのは、何年ぶりだろうか。2，3年ぶりだったような気がする。
「ねえ、篤？　初めて一緒にデートした時を覚えてる？」
「いや、覚えていないな」
「その時も、水族館だったよね」
そうか。じゃあ、3年前だ。
「この時は、篤、顔を赤くしていて可愛かったなあ」
「や、やめろよ」
「え～。だって本当じゃーん」
確かに、そうだったと思う。あの時は、僕から告白して――。
「まあ、今でも十分可愛いけどね」
「男は、『可愛い』じゃなくて、『かっこいい』で喜ぶんだよ」
「じゃあ、かっこいい」
その言葉は、またしても棒読みだった。
「おい。絶対根に持ってるだろ！」
「うん。仕返し」
あはは、と舌を出しながら笑う彼女を見て、しばらくは元気ができるかなあ、と思った。

デートが終わって、帰宅している途中だ。彼女から、電話がきた。
「なに？」
「なにって……。篤、指輪の返事だけど。ごめんね」
ごめんね？　じゃあ……。
「嘘だよ。私と、結婚して」
ほっと胸を撫で下ろす僕。
「え？　じゃあ――？」
「うん。いつ式を開こうか」
「明日にでも」
僕の冗談に、電話越しで笑いあった。

（後書き）

作者に甘い話は、似合いません。宇宙服をしないで宇宙へ行くぐらい似合いません。（そうしたら、死にますが）

何度ＢＡＤ　ＥＮＤにしようと思ったか……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6139z/

イルミネーション・デート

2011年12月24日05時49分発行